

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和6年度第2回入間市上下水道審議会
開 催 日 時	令和7年3月21日(金) 午後2時00分開会・午後3時30分閉会
開 催 場 所	入間市役所 C棟501会議室
議 長 氏 名	入間市上下水道審議会 会長 相葉 学
出席委員(者)氏名	福島 和弘、小島 雅子、奥富 茂生、小川 晋、佐々木 恵巳子、 田中 啓子、宮寺 弘隆、市原 義道、久保田 清美、池上 公子、 青山 友子
欠席委員(者)氏名	岸本 貴志、永井 儀男、村井 秀雄、
説明者の職氏名	3 報告事項 (1)・(2) 上下水道部参事兼上下水道経営課長 藤田拓也 (3)・(4) 上下水道経営課 総務担当 豊泉 隆
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報告事項 (1) 令和7年度 水道事業会計予算概要 (2) 令和7年度 下水道事業会計予算概要 (3) 上下水道ビジョン策定、上下水道事業の料金等について (4) 令和7年度 上下水道審議会スケジュールについて 4 その他 5 部長あいさつ 6 閉 会
非 公 開 理 由	—
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	・ 令和6年度第2回入間市上下水道審議会会議次第 ・ 席次表
事務局職員職氏名	上下水道部 晝間上下水道部長、豊泉上下水道部次長 上下水道経営課 藤田参事兼課長、山川主幹、長山副主幹、

	豊泉副主幹、松尾主任、鈴木主事、小野寺主事補 水道施設課 内沼課長、野口主幹、山田主幹、萩原主幹 下水道施設課 高野課長、熊倉主幹、田中副主幹、高田副主幹
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 （ 2 ）

議 事 の 概 要 （ 経 過 ） ・ 決 定 事 項

○審議会の会議録

署名する委員については、奥富 茂生 委員が指名された。

○報告事項

- （１） 令和７年度 水道事業会計予算概要
- （２） 令和７年度 下水道事業会計予算概要
- （３） 上下水道ビジョン策定、上下水道事業の料金等について
- （４） 令和７年度 入間市上下水道審議会スケジュールについて

４件の報告については、「異存なし」となった。

○その他

事務局より次の事項を説明

- ・ 来年度は上下水道の料金改定の検討に入るため、審議会の回数が増える。
- ・ 令和７年４月２２日に令和７年度第１回上下水道審議会を予定している。詳細については、詳細が決まり次第、通知する。

- ・ 報告以外で審議委員より意見があったため、下記のとおり記載。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
相 葉 会 長	(開会の挨拶、審議会開催にあたっての注意事項) 3 報告事項 (1) 令和7年度 水道事業会計予算概要について (説明者：藤田参事兼課長)
市 原 委 員	八潮市の事故当時、緊急調査と緊急対応を実施するよう国からの指示があり、その対応のために若干の支出が行われた旨が報道されていた。今回の資料には、当該支出に関する内容は別枠であり、本資料には含まれていないという認識でよいか。
藤田参事兼課長	八潮市の事故は下水道事業に関するものであり、今回資料1で説明した内容は上水道事業に関するものです。現在、八潮市において実施された点検や国からの指示については、この後に説明と質疑応答の時間を設ける形で対応致します。本日は荒川右岸下水道事務所の永井委員が出席予定でしたが、八潮市の事故対応のため欠席となっております。県のホームページに掲載されている情報の範囲内であれば、県の危機対策本部会議の資料を基に説明することは可能ですが、当事者ではないため、十分な説明ができるかについては疑問が残ります。その点については、下水道事業の場において説明するのが適切と考えます。
市 原 委 員	報道を聞く限り、管路については布設から40年や50年が経過すると危険という内容が伝えられており、上水道も対象になると思われるが、今の話によると上水道は対象外になる可能性があるということか。

発 言 者	発 言 内 容
藤田参事兼課長	下水道については、現状の国からの指示では、汚水管の口径 2m 以上の管路が点検の対象と聞いております。入間市では、管路の最大口径が 1.35m のため点検の対象外ですが、事故直後に下水道施設課の職員が点検を実施し、路面に割れやひび割れがないか目視で確認しました。また、上水道についても今後の状況を注視していきます。
市 原 委 員	「2. 業務予定量」において、②の年間総給水量がプラス 33 万 420 m³に対して給水戸数は減少しているが、何か理由があるのか。
藤田参事兼課長	人口減少に伴って小口契約（13 mm、20 mm）の件数が減少しており、それにより給水戸数が減っていると考えられます。一方で、給水量が増加している主な要因として、昨年4月に大妻女子大学の跡地に「わらべやデリカ」という企業が稼働を開始したことが挙げられます。この企業はセブンイレブン向けのうどんやそばの工場を運営しており、麺類の製造に大量の水を使用するため、水道使用量が大きく増加しております。
市 原 委 員	「5. 収益的支出」の①鍵山浄水場等管理業務委託が昨年と比べて5,000 万円ほど増加しているが、委託業務が増えたのか。
内 沼 課 長	5年間の契約が本年度で終了し、来年度から新たに5年間の業務が開始されます。業務委託料については、近年の人件費の上昇が影響しておりますが、基準書に基づき積算を行った結果、大幅な予算の追加が必要となりました。これにより、今回はプロポーザル方式で事務を進めることになりました。最終的には予算の範囲内に収まっているものの、前回の5年間と比較すると、費用が大幅に増加しているのが実情です。
市 原 委 員	実際の業務量に見合った金額になったということか、それとも業務内容

発 言 者	発 言 内 容
内 沼 課 長	を増やした結果なのか。 業務内容自体は大きく変わっておりません。前回は比較的安価での受注であった面もありますが、今回は積算基準書に基づいて積算を行った結果、大きな差額が生じたものです。
市 原 委 員	結果として価格交渉に敗れた印象を受けるが、すでに事後報告であり、今さら言っても致し方ない。
宮 寺 委 員	「８．資本的支出」における配水管改良費が約 10 億円と記載されているが、そのうち耐震管や老朽管の布設替えに要する金額はいくらか。また、昨年度と比較して増減はどうなっているか。
内 沼 課 長	配水管改良費の全額が、老朽管や耐震管への更新事業に該当します。昨年度の配水管改良費は 11 億 4,200 万円であり、本年度は約 1 億円の減少となっております。
宮 寺 委 員	毎年、資本的収支の不足額を損益勘定留保資金等で補てんしているとのことだが、損益勘定留保資金とは具体的にどのようなものであり、現在の残高はいくらか。質問の意図は、この不足額の補填が将来的にも継続可能かどうかを確認することにある。
藤田参事兼課長	簡潔に言えば、損益勘定留保資金とは過去の利益の積立です。資本的収支は常に不足するため、その補填に充てております。
宮 寺 委 員	その積立額がいくらあるのかを確認したい。今後の水道料金の改定にも関わるため質問した。

発 言 者	発 言 内 容
藤田参事兼課長	令和7年度予算における損益勘定留保資金の残高は、20 億 7,281 万円です。 3 報告事項 (2) 令和7年度 下水道事業会計予算概要について (説明者：藤田参事兼課長)
市 原 委 員	水洗化戸数がプラス 100 戸に対して年間総排水量が 20%近く減少している。セブンイレブン向けのうどんやそばの工場があれば排水量は増えると思うが、教えていただけるとありがたい。
長 山 副 主 幹	水洗化戸数の増加について、下水道の場合は水道利用者だけでなく、井戸利用者等も含まれているため、すべてが水道利用者と一致するわけではない点があげられます。 また、入間市では単身世帯の増加傾向が見られます。例えば、アウトレットモールの従業員が単身世帯として入居するケースが増加しており、この傾向はここ数年継続しております。この状況を踏まえ、おおよそ 100 戸程度の増加が見込まれております。これは実際の調定件数をもとに算出したものであり、おおよその増加傾向を示す目安となっております。 一方で、最も注目すべき点は年間総排水量が減少していることです。従来、当初予算における年間総排水量は、過去5年間の決算における維持管理負担金対象水量、すなわち県に流す水の最大想定量を基に算出しておりました。この最大想定量とは、令和元年および令和2年のゲリラ豪雨を考慮し、それぞれの年を四半期に分け、四半期ごとの最大雨量に基づいて推計したものです。このため、昨年度までは年間総排水量を約 20%増しの状態で見込んでいたことになります。

発 言 者	発 言 内 容
市 原 委 員	しかし、令和３年度から令和５年度までの決算状況を見ると、こうした見込みに対して実際の数値は大きく下回って推移しておりました。すなわち、過大な見積もりのまま決算を迎えていたということです。この状況を踏まえ、令和７年度の当初予算策定においては、近年の実績に即したものとするため、令和５年度の決算数値を基に年間総排水量を算出いたしました。これにより、現実には即した数値へと引き下げた形となります。 ただし、ゲリラ豪雨のような極端な気象現象は予測が非常に難しく、排水量を多く見積もり過ぎると、その分、県に支払う金額も増加するため、判断は極めて難しくなります。今回はこうした点を考慮しつつ、現実には比較的近い数値を採用いたしました。 下水道使用量としては、昨年度と今年度で大きく変わっていないということで承知した。 「５．収益的支出」に計上されている内水浸水想定区域図作成業務委託は、令和７年度限りの単年度業務であるのか、それとも今後も継続的に支出が発生する業務であるのか確認したい。
高 野 課 長	近年多発しているゲリラ豪雨や内水による浸水被害を踏まえ、それらに基づく浸水想定区域をシミュレーションにより算出し、その図面を令和７年度に作成する予定です。その後は、ハザードマップの作成に向けた準備を順次進めていくため、継続的な事業として位置付けております。将来的に、雨水整備に要する費用など多くの課題がありますが、今後の雨水整備の基礎となる非常に重要な取り組みです。そのため、来年度に本業務を実施する計画となっております。
市 原 委 員	かなりの金額が使われているので、良いものを作ってほしい。

発 言 者	発 言 内 容
市 原 委 員 藤田参事兼課長 市 原 委 員	3 報告事項 (3) 上下水道ビジョン策定、上下水道事業の料金等について (説明者：上下水道経営課 豊泉副主幹) p.2 に本市の将来像と記載されているが、その内容からは将来像が明確に見えてこない。何らかのイメージはあるのか。この点を明確に捉えておかないと、p.3 に記載されているように、目指すべき取り組みの方向性をチェックする際の基準が定まらず、どこに向かうのかが不明確なままでは、良いのか悪いのかの判断ができないのではないかと。 これまで、上水道と下水道の二つの計画は別々に作成・公表されており、それが利用者にとって分かりづらい要因となっております。それぞれのビジョンには将来像や経営計画が記載されていますが、表現に一貫性がなく、同様の内容であっても伝わりにくい部分がありました。また、別冊として記載されていたこともあり、多くの人が内容を把握しづらいと感じていました。 こうした状況のもと、国土交通省が上水道と下水道の両方を所管することになったこともあり、一体的な「上下水道ビジョン」としてとりまとめ、将来の課題を明確化しつつ、今後の方向性をより分かりやすく示す形に作り直す必要があります。二つのビジョンを統合し、様式や形式を統一したうえで、上水道と下水道がそれぞれどのような方向に進むべきか、課題を整理する必要があります。 今の説明は中長期計画の内容に関するものであるが、本来であれば、その上位に将来像があって、そこに向けて中長期計画が策定され、ビジョンが構築されるべきと考える。下水道の中長期計画と新水道ビジョンを確認し

発 言 者	発 言 内 容
長 山 副 主 幹	たが、将来像や目指すべき方向が見えてこなかった。 この点を明確に捉えなければ、方向性が正しいか否かの判断ができない。 今ここで回答を求めるつもりはないが、この点を十分に踏まえたうえで今後の検討をお願いしたい。「将来像」という言葉は非常に重いものである。 ご指摘のとおり「将来像」という言葉は非常に重いものであり、また内容が掴みにくい面もあります。日水コンからの説明にもあったように、水道料金や下水道使用料が減少傾向にある中で、老朽化や耐震化への対応が求められております。そのため、入間市における水道管路のうち、どの程度が老朽化に該当するのか、あるいは下水道管路のうち、何%がすでに耐用年数を超えているのかといった現状を正確に把握した上で、実現可能な将来像を策定していくことが、検討において重要なステップです。 したがって、入間市の今後の財政状況や料金改定の可能性を見据えた上で、どのような形で施設を更新しながら、収入の見通しを立てるかを検討しつつ、今後入間市が目指すべき上水道・下水道の将来像を、今回のビジョンにおいて明確に示す必要があります。 現時点では、将来像が十分に明確とは言えず、将来の状況についても把握しきれていない部分がありますので、(株)日水コンのノウハウを活用し、全国的なシミュレーション情報を参考にしながら、入間市の実情に即して、どの程度の規模で更新が可能であるかを見極めつつ、今後の計画策定を進めていくとともに将来像が極めて重要であることを念頭に置きながら、新たな上下水道ビジョンの策定に取り組んでいきます。現時点では明確でない部分もございますが、今後それらを明確にして、皆様にご意見を伺いながら、その内容が妥当であるかどうかを判断していただきたいと思います。

発 言 者	発 言 内 容
市 原 委 員	我々としては定期的なチェックしかできないので、実務を担当する方々には頑張ってもらいたい。
奥 富 委 員	前々回いただいたビジョンの p.12 において、資本的支出として令和6年度から令和8年度に固定資産購入費が記載されているが、その後の実績はどのようなになっているのか。
豊 泉 副 主 幹	令和6年度から令和8年度までの計画は、令和3年度の試算に基づいている。固定資産購入費の話となるとパソコンについては6年に1回の購入を行っており、次回の購入は令和7年度を予定しております。また、災害時に必要となる衛星電話についても令和7年度に購入予定であり、一般回線が使用できなくなった場合でも、衛星を通じて通信が可能となっております。現在3台を所有しており、来年度に新規機種を購入する予定となっております。
奥 富 委 員	具体的なことではなく、ビジョンに基づいて固定資産の購入が実行されているのかを確認したかった。
豊 泉 副 主 幹	固定資産の購入の件は、ビジョンに基づき実行しているという認識で差し支えございません。
宮 寺 委 員	ビジョンを令和8年度中に策定するために、令和7年度中に料金等の検討を行うということは、令和8年度には値上げはしないという考えでよいのか。
藤田参事兼課長	令和7年度中に、総括経費、すなわち何にどのような費用がかかるのかについて、日水コンに委託して作成した資料を皆様に提示する予定です。そ

発 言 者	発 言 内 容
相 葉 会 長	更新するかどうかは別として、今後 50 年後に同様の問題が再び発生することを避けるためにも、更新時期の平準化を図るべきという考え方もあります。持続可能な上下水道経営をどのように実現していくかという点も含め、コンサルタントの助言を受けつつ、皆様と共に検討を進めていきます。 現行の新水道ビジョンと下水道の中長期計画については、令和 3 年に中間評価を行ったが、現行計画での具体的な反省点や最終評価を令和 7 年度か令和 8 年度に行わなくてよいのか。それとも令和 9 年度からの計画の中に、前ビジョンの評価という内容を掲載するのか。
藤田参事兼課長	評価シートというものがあり、毎年の決算報告において、この評価シートを用いて各年度の評価を行っております。PDCA サイクルに基づきチェックを行っているため、総括という形式は考えていないが、次期ビジョンにおいて何らかの評価が必要との意見がある場合には、今後その対応について検討していきます。 3 報告事項 (4) 令和 7 年度 入間市上下水道審議会スケジュールについて (説明者：上下水道経営課 豊泉副主幹)
市 原 委 員	委嘱期間が終わるので延長してほしいという要望があったが、延長はいつまでとなるのか。
豊 泉 副 主 幹	現在の委嘱期間は令和 7 年 9 月で終了しますが、改めて令和 7 年 10 月から令和 9 年 9 月までの 2 年間について、引き続き委員の継続をお願いできないかと考えております。今後、料金の検討など重要な議題が控えてお

発 言 者	発 言 内 容
	り、これまで審議にご参加いただき、状況をご理解いただいている皆様のもとで、引き続き審議を継続したいと考えております。何とぞご理解とご協力をお願いします。
宮 寺 委 員	区長会にはどのような説明をするのか。
藤田参事兼課長	各地区に対して推薦を依頼する文書を送付し、こうした審議には継続性が重要であることから、現在の委員の皆様へ引き続きご担当いただきたい旨を、各地区長や町会長にお願いしていく考えです。もちろん、皆様それぞれのご事情については個別に確認させていただいた上での対応となりますが、引き続きのご協力についてご了承いただければ幸いです。
市 原 委 員	本人の意向確認はあるのか。
藤田参事兼課長	本人の意向は確認させていただきます。ぜひとも引き続きお付き合いをおねがいします。
久 保 田 委 員	八潮市で発生した陥没事故が注目を集めている。入間市として現状をどの程度まで市民に周知するかについては判断を委ねるが、先ほど、入間市の下水道管の最大直径が 1.35m であるとの説明を受け、一定の安堵を感じたところである。国土交通省からは、直径 2m 以上で経過年数 30 年以上の下水道管について、1 年以内に調査報告を行うよう求める通達が出されたとのことだが、この点も踏まえ、入間市の市報等において、長文である必要はないが、市民に対し現状を適切に伝えることが重要であるとする。特に、下水道管に関する不安を抱える市民に対し、一定の安心感を与える情報提供が求められており、ぜひその点についてご対応いただければありがたい。

発 言 者	発 言 内 容
高 野 課 長	ご要望の点については、現時点で実施している取り組みに関してご説明の機会を設けているため、その場でお伝えできればと考えております。 八潮市で発生した重大な事故を受け、入間市においても国土交通省および埼玉県からの通知を受けて緊急点検を実施しました。その一環として、下水管の主要な汚水管 47.9km について目視調査を行い、その結果については入間市のホームページにて公開しております。 入間市の汚水管における最大直径は 1.35m で、八潮市の管の大きさは 4.7m です。国からの点検調査対象は、入間市で 2m 以上の管は雨水管が今回対象となりますが、そのうち布設から 50 年以上を経過した管は約 1.8km、30 年以上の管は約 1.8km となっております。 今後、国や県からの点検要請に対しては、市としてどのように対応していくかを検討し、計画的に進めていく方針です。現在は関係機関と協議を重ねながら進めており、公表可能な段階になった際には、ホームページに情報を掲載し、市民に対して広く周知していく予定です。
久 保 田 委 員	案内は主にホームページを中心に行っているとのことだ。もちろん、現在がそのような時代であることは理解しているが、年配者やデジタルに不慣れな方々にも分かりやすい手段があれば、より親しみやすく、やさしい印象を与えることができるのではないかと思う。
市 原 委 員	上下水道トピックスがそろそろ発行される時期ではないか。
豊 泉 副 主 幹	上下水道トピックスについては、毎年 1 月 1 日号として年 1 回発行しております。今年度も同様に 1 月 1 日号として発行しており、来年度もこの形式に合わせて発行する予定です。内容としては、例えば今年度は能登半島への応急給水活動を行ったことなどを掲載しております。今後も掲載する内容については上下水道部内で協議を行い、その時期に適した情報を発信

発 言 者	発 言 内 容
相 葉 会 長	していく方針です。 ホームページを紙媒体で、市役所の窓口や公民館に置くような制度はないのか。
長 山 副 主 幹	下水道については、污水管がどこに配置されていて、最大で 1.35m など簡単な下水道の仕組みを作成し、上下水道経営課の向かいにある水道お客様センターに掲示しております。また、市役所の外にある水道お客様センターにも、カラーで印刷したものを掲示しております。こちらは2月初旬に掲示しましたが、経営課の窓口にも増やしていければと思います。
市 原 委 員	自治体の回覧板を使えばよいのではないか。
藤田参事兼課長	入間市のデザインマンホールが県内で第3位に選ばれたことを受け、そのお披露目を兼ねて、来年度は各地区センターに掲示していく予定です。これにより、市民の皆様の目に触れる機会が増え、関心が高まることが期待されます。まずは博物館で展示を開始し、その後、順次各地区センターを巡回していく計画です。昨年度は「いるティ」が第1位を受賞し、今年度は「茶娘」が第3位となりました。これらのデザインを紹介しながら、下水道に対する理解を深めていただくことを目的としております。特に、デジタルに不慣れな方々にも実際にご覧いただくことで、より広く下水道への関心と理解を促進していきたいと考えております。

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和7年4月17日

議長の署名

相 華 学

議長が指名した者の署名

奥 田 茂 生